

**食品に関するリスクコミュニケーション～輸入食品の安全確保に関する意見交換会(施設見学含む)～
(平成19年10月27日開催：横浜市)
アンケート集計結果**

参加人数 42名
アンケート回答者数 37名 回答率 88.1%

Q1 ご自身について、ご回答ください。

1 性別		
1 男性	22	(59.5%)
2 女性	14	(37.8%)
2 年齢		
1 ～19歳	0	(0.0%)
2 20歳代	7	(18.9%)
3 30歳代	10	(27.0%)
4 40歳代	6	(16.2%)
5 50歳代	9	(24.3%)
6 60歳代	5	(13.5%)
7 70歳～	0	(0.0%)
3 ご所属		
1 消費者(団体を含む)	11	(29.7%)
2 生産者	2	(5.4%)
3 製造・加工業	12	(32.4%)
4 流通・販売業	6	(16.2%)
5 報道関係者	2	(5.4%)
6 行政関係者(独法含む)	3	(8.1%)
7 その他	2	(5.4%)
4 本日参加された目的		
1 食品の安全性の問題に関心があるため	27	(73.0%)
2 輸入食品の安全確保について知るため	29	(78.4%)
3 検疫所の業務内容について知るため	19	(51.4%)
4 出席者や参加者の意見を聴くため	9	(24.3%)
5 施設見学に参加するため	19	(51.4%)
6 意見・要望を述べるため	1	(2.7%)

Q2 本日のリスクコミュニケーションの実施について、何でお知りになりましたか。

1 新聞	0	(0.0%)
2 ラジオ	0	(0.0%)
3 雑誌、情報誌、自治体広報紙等	1	(2.7%)
4 ポスター又ははちらし	0	(0.0%)
5 ホームページ	27	(73.0%)
6 所属団体からの連絡	6	(16.2%)
7 その他	4	(10.8%)

Q3 演者からの説明についてお伺いします。説明内容について、十分に理解することができましたか

1 できた	16	(43.2%)
2 おおむねできた	17	(46.0%)
3 あまりできなかった	4	(10.8%)
4 できなかった	0	(0.0%)

SQ1 十分に理解することができなかった理由は次のどれですか。(当てはまるものを全て)

1 用語など内容が理解しにくい。	0
2 説明資料が見にくい。	1
3 説明が聞き取りにくい。	0
4 自分が理解していることとは異なる説明である。	2
5 その他	3

Q4 本日のリスクコミュニケーションについてお尋ねします。意見交換での議論の内容等について理解できましたか?

1 できた	10	(27.0%)
2 おおむねできた	23	(62.2%)
3 あまりできなかった	0	(0.0%)
4 できなかった	0	(0.0%)

SQ1 十分に理解することができなかった理由は何ですか(当てはまるもの全て)

1 用語など発言の内容が理解しにくい。	0
2 発言が聞き取りにくい。	0
3 その他	1

Q5 本日のリスクコミュニケーションについてお尋ねします。意見交換において、自分とは異なる見解の発言はありましたか?

1 あった	7	(18.9%)
2 なかった	21	(56.8%)

SQ1 異なる見解の発言の趣旨は理解することができましたか。

1	できた	3
2	おおむねできた	5
3	あまりできなかった	1
4	できなかった	0
SQ2 発言の趣旨が十分に理解することができなかった理由は何ですか。		
1	そのような見解に立つことが信じられない。	0
2	そのような見解に立つ理由が述べられていなかった。	0
3	その他	2

Q6 以下のそれぞれの設問について、【意見交換会に参加する前】、【意見交換会に参加して】で当てはまるものを1つずつ選んでください

1. 検疫所における輸入食品の監視について

【意見交換会に参加する前】

1	内容も含めて知っていた	9	(24.3%)
2	検疫所で実施していることは知っていた	23	(62.2%)
3	知らなかった	3	(8.1%)

【意見交換会に参加して】

1	理解が深まった	29	(78.4%)
2	変化なし	6	(16.2%)

2. 輸入食品の安全性について

【意見交換会に参加する前】

1	かなり不安	2	(5.4%)
2	やや不安	14	(37.8%)
3	安心	7	(18.9%)
4	どちらともいえない	10	(27.0%)

【意見交換会に参加して】

1	以前より安心感が高まった	11	(29.7%)
2	変化なし	21	(56.8%)
3	以前より不安になった	1	(2.7%)

SQ1 (Q6 2の【意見交換会に参加して】で「3) 以前より不安になった」と回答した方)

どのような点が不安になりましたか。

これだけの輸入国でありながら、水際での検疫体制としては、不十分との印象が強まりました。
安心とは思っていないが、一般に反応しすぎ、大きすぎないか！

Q7 厚生労働省のホームページにおいて、輸入食品監視指導計画、関係通知、違反事例等を掲載している「輸入食品監視業務ホームページ」があることをご存じでしたか。

1	利用したことがある	25	(67.6%)
2	知っていたが利用したことはない	5	(13.5%)
3	知らない	5	(13.5%)

Q8 本日のリスクコミュニケーションでは施設見学を取り入れました。今後の参考にさせていただきますので、以下につきましてお答え下さい。

1)良かったと思う点

検査命令の意味、国と県の役割負担が理解できた。
体験コーナーもあり、楽しく見学できると思います。
実際に検査環境をみることで、より身近に感じられ、理解が出来た。
内容が具体的な点。
実際にどういう事をやっているのかイメージがしやすくて良かったです。
具体的な設備を見て、現場の苦労がわかった。
検査を身近に感じ、大変な作業だと日々の仕事に感謝の思いでした。
実際行われている業務や場所を目で見ることができ、より理解がしやすかったと思う。
現場が実際にみられた点。
施設を見学して、現場の声を聴けて良かった。
実際のworkingの一片を見て良かった。特に説明していただけたことが。
見学会と同時にできるところ。
公的な検査設備・施設のレベルがわかった。
設備・検査方法・判断基準等がよく理解出来た。
場所がよかった(が、規模の小さいものだからか・・・)。
検査所内での作業内容の概要がわかったこと。実習コーナー(二酸化硫黄)で体験等ができたこと。
具体的に違反となった食品の写真と違反原因物質のパネル写真は良かった。
体験を子供にもさせてやりたかった。
他のリスコミでも現場を見せる等のスケジュールが含まれている方が良いと思う。

2)改善すべきと思う点

時間が足りませんでした。
標本サンプル(微生物、寄生虫等)があれば興味がある。
クノールのように説明してもらえるとありがたい。

見学順路について、粉碎から、タンパク、DNAと、見やすい方向になっていると良いなと思いました。
現場の人も意見交換の場に、もっといた方が良かったと思う。実際の作業風景も見てみたかった。
資料をもう少し。(手順書の見方とか、この違反例はここでどれくらい検出されたかといったデータ)。
見学に行き戻るのではなく、見学→リスクコミュニケーションなど、移動がない方が良いと思います。
実際の作業を見てみたい。
民間の施設の方が優れている面が多々あります。見学されて良い点は取り入れられたら、と感じました。
検査の作業風景が見てみたかった。立地も少々良かった。

Q9 本日のリスクコミュニケーションの進め方についてお尋ねします。

1)良かったと思う点

少人数でより理解が深まる点。
施設見学と一緒にしたのは、わかりやすくて良かったです。
実際の現場で行ったこと。
見学も含まれ、良かった。意見交換に色々な話が出、充実していたと感じます。
少人数だったので、詳しい話まで聞けたことが良かった。
人数が少ないため、質問しやすい。
現場の方から直接お伺い出来たことは良かった。
できるだけ具体的な数値を出した説明をしていた点。
時間がきちんと守られ、整然と進行していた点。
活発な意見交換が出来たと思う。
他の業務機関の方との見解差が感じられた(良い意味)。輸入食品に対する受け入れ時の安全確認体制の透明性が少し上がった。進め方については特にありません。

2)改善すべきと思う点

消費者の知識レベル。
安全の責務を食品事業者にある、ということはあるが、現実的にそれが可能かという難しいと考える(食の多様化、取引国の多さ、国民性)。
テーマが広すぎて、質問が幅広く、質問しづらいこともあった。課題がいくつか事前に上がっていると良いと思う。
現状の説明に終わらず、今後の取り組み、向上の方向性について説明がほしかった。
実際の消費者のリスクや不安に繋がる情勢についても、もっと具体的な例を出して取り上げて欲しい。
最初の説明の時間が短いように思えた。
講演は大変分かりやすかったが、時間が足りないと感じた。時間を増やして、もう少し詳しく説明してもらえると良い。
本日の進め方に問題はあります。
もっと明確な回答があつてしるべきである。事前に質問を受け付けておく必要を感じた。

Q10 その他、今回のリスクコミュニケーションについて、お気づきの点がありましたら記入願います。

消費者の方々と一緒に参加できたため、消費者の方が求めていることが聞けた。業界だけの集まりしか参加しなかったのが良かった。
もったいない。参加者が少人数なので。
最初のプロジェクター(?)の材料を、きれいな見やすいものに改善して欲しいです。
具体的事例を紹介した方が、消費者には理解しやすいかと感じます。
「リスクコミュニケーション」という言葉がまだまだ一般に浸透していないのではないかと思います。
消費団体(?)の方々の一部の考え方を知ることが出来た。
会場が狭かったので、せめて通路が欲しいです。